

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300199		
法人名	タカハシライフサポート株式会社		
事業所名	グループホーム 花・水・木 (A棟ユニット)		
所在地	網走市駒場北1丁目3番地の21		
自己評価作成日	平成30年12月21日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな道路に面した住宅街に位置しており、バス停もすぐ近くにあり。また、施設の隣にはコンビニがあり、大きな道路にはショッピング街や飲食店があり、この1本の道で日常生活に必要なものを揃えることが出来たり、付き添いの元買い物へ行くことも出来ます。
 2階の一部の居室からはオホーツク海を眺めることが出来、2月には真っ白な流水で埋め尽くされ、夏には鮮やかな青い海や、市で行われる花火大会の一部を見ることが出来ます。
 また、サービス付き高齢者向け住宅が併設されているため、夫婦のどちらかが認知症となった場合でもグループホームと住宅とに分かれて入居し、自由に行き来が出来たり一緒にレクや食事を楽しむことが出来ます。
 現在は1組の夫婦が入居されており、この施設で一緒に生活が出来ることをご夫婦、ご家族共に大変喜ばれています。
 併設住宅にはカラオケの機械があり、毎週日曜日は住宅、グループホーム合同でカラオケ大会を行っています。元気よく歌われる方、歌うのは苦手でも聞くのは楽しいと参加される方、また、住宅に入居している方とのコミュニケーションの場として参加される方等、楽しみの場となっています。
 今年度は初めて町内会の盆踊りに参加することができました。踊ることはできませんでしたが、おやつをもらって食べてきたり、お話しをされ楽しめたようです。今後も地域との交流や町内会のイベントに参加し、理念でもある「地域に根ざしたオアシス」となれるよう力を入れていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosyoCd=0195300199-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示している。入居者様一人ひとりを大切にす姿勢について、社長からの毎回訓示と共に理念に添うケアが出来る様意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等、施設のイベント時は地域の慰問の方に来ていただいている。今後も継続していく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された家族や、面会に来られた家族や友人等に対しては行っているが、地域に向けては行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険係や地域包括支援センターの方よりいただいたアドバイスや情報等を参考に、実践している。家族や地域の方からの提案、アドバイス、要望等を取り入れて行きたいと考えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例等がある場合には、電話等で相談・連絡を行いスタッフへ周知しているが、記録は残っていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間20時～6時まで防犯対策として施錠している。入居者様の様子や状態を申し送りやカンファレンスを常に行い、身体拘束にならない様に対応策を考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に積極的に参加し、感想を伝達しながら再確認している。声掛け一つでも虐待になるかならないかなどスタッフ間で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の研修課題として前回あげたが、実際あまり講習もなく知識を得られていない。今後講習があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書・契約書を読んで説明している。保安や疑問点がないかを確認しながら、理解していただけるよう説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等に意見・要望をいただき、反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所での会議や休憩時間に職員と話し、意見等を聞いている。その他、随時意見や提案をもらい、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりが仕事にやりがいがあるよう係りの担当を決めて実践したり、有休休暇の利用や退社時間の厳守を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。また、外部研修に参加した際は、スタッフ会議等で伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム部会が主催している「スタッフ交流会」に参加することで同業者との交流機会があり、その時に意見交換したものを日々の業務の参考にしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談管理者・計画作成担当者がご本人と面談を行い。不安や要望等を聞きながら顔を覚えていただき安心感を持っていただけるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前後に管理者・計画作成担当者が御家族と面談を行い。不安や要望等を聞きながら顔を覚えていただき安心感を持っていただけるよう工夫している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の意向を把握し、必要なサービスを利用できるように情報提供を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の残存能力に応じて家事や作業等に参加してもらう機会を増やしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や一時帰宅で交流の機会を作っている。その際ご本人様の施設での様子を伝え、定期受診等可能な事はご家族様にお願いしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が来訪する機会が多い。ドライブは行っているが、自宅や馴染みの地域を回る事は少ない為、今後の課題となっている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がコミュニケーションをとりやすいように座席の位置に配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談があれば応じる姿勢は同様である。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様から今後の生活についての希望や要望を聞いて、それに少しでも答えられる様に、ユニット内で常にカンファレンスを行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご本人やご家族関係者から聞き取りを行い、フェイスシートを作成。入居後も折に触れ情報収集に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が個々のペースで生活が出来る様に支援している。日々の気付きを申し送り、ケース記録、連絡ノートを活用し、職員間の情報共有に心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は6ヶ月毎に見直しを行っている。モニタリングは、3ヶ月毎に行っている。状態変化に合わせてミーティングやカンファレンスを行い意見やアイデアを出し合い臨機応変に内容変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録がモニタリングやアセスメントに役立つ内容かを毎月チェックしている。伝達ノートや日誌、ボード等を活用し、情報共有を行い。必要時には計画変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々人の趣味や嗜好に合わせて、実現出来るように常に話し合い工夫している。その為に、ご家族にも参加していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHの特性を活かし、助け合い、協力しながら出来る所は皆で行えるように工夫している。移動販売同行。近隣店買い物、外食等日々の生活が怠惰なものにならないよう気を使っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診にあわせて、入居時の様子等を担当Drには情報伝達として、お手紙やメモ等を渡し、入居者様の心身の適切な治療の補助的な役割として行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護利用。1週間の様子や変化を伝達し、必要なアドバイスを常にもらってそれをスタッフに伝達し、実践し評価を翌週の訪問看護に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に面会に行っている。ご家族や医療従事者との連携をとりながら、入退院、治療経過等常に情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師との協力体制や諸々の状況からターミナルケアは行っていない。状態の変化や悪化時には、すぐ受診する事している。ご家族も了承している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、講習等にも参加し実践に備えている。事務所にAEDを設置し急変対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施で課題を出し、次の訓練に活かす努力をしている。H30年始めて大規模停電があった。そこから得た(備品・設備・連絡体制等)課題解決の為、施設全体で安全の配慮に努めた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月カンファレンスを行い、職員間でお互いの関わりを確認し合う等入居者様の尊厳やプライバシーに配慮した対応を図っている。接遇研修のにも参加している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面(飲食やする、しない。行く行かない等)で、入居者様に考えてもらい、自己選択が自由に出来るような雰囲気づくりを心掛け、工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしている。その日の体調変化に配慮し、ゆっくりと過ごしていただける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日やクリスマス等のイベントの時には、その人らしい小物などを選びプレゼントしている。また、御家族様にも協力していただき四季に合う服を用意していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様と協力し合い調理の下ごしらえ、盛り付けや茶碗拭きを共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示も有り、水分・食事等個々に合わせて対応している。水分では、好みの物を洗濯してもらい水分量の増加を提供中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行っている。口腔内の状態見ながら実施している。必要時には、訪問歯科以來している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し介助が必要な方には、記録みて介助、声掛けを行っている。視線を逃がさない様努めている。汚染がある時は、洗浄・入浴等行い清潔を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分補給。レクでの体操や散歩等の運動で予防。排便の間隔を把握して、医師や訪問看護と連携をとり、個々に応じた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定、体調チェックを行い、個々に合わせた確認事項を整理し、入浴の嗜好を把握して手順を統一して満足していただける様な入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせて休んでいただいている。TVを観てから臥床する方。臥床前には、リラックス出来る様に部屋を温める等安眠に心掛けて、寝具や室温に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意したり、服薬の時にはご本人様と確認し合い、飲み込み確認している。また、飲み間違いや配薬間違いが無い様にスリーチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや料理の下準備、編み物等を提案させていただき、ご本人が少しでも楽しんでいただける様工夫している。個人の能力に合わせた支援をしています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は日常的に付近散歩や近隣コンビニへ買い物に出かけている。その他施設イベントにはご家族に参加を呼びかけを行ったり、バスレクも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や能力に応じて、本人管理している。移動販売車や自動販売機を利用している。ただ、まとまったお金は施設管理。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、手紙の代筆や投函を行っている。携帯電話を持参している方には、自由に連絡を取れるように本人管理している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間として使用しているホール・トイレ等は、常に清潔を保ち、特にトイレの使用後は、汚れが無いか確認している。また、TVの音に気を配り、会話を楽しめる様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人必要な存在であり、皆で支えあい今日は楽しかったと思ってもらえる機会を多く持ち、日々穏やかに過ごしたいと思ってもらえる様な企画を考え実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様が過ごしやすいように個々人の家具を用意していただきご本人の希望に出来るだけ沿った配置を優先に考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクを減らす為、移動の導線に物を置かない様になっている。又トイレは使用状況が分かるように札を付けている。居室がわかる様に居室毎に飾りを付けている。		